

対ペルー環境プログラム無償資金協力
「太陽光を活用したクリーンエネルギー導入計画」
引渡式典 株丹大使 挨拶文

(平成27年11月12日(木) 8:30～、SEDAPALカラポンゴ下水処理場)

エネルギー鉱山大臣	ロサ・マリア・ <u>オルティス</u> 様
住宅建設上下水道省住宅都市計画副大臣	リカルド・ <u>ビダル</u> 様
リマ上下水道公社総裁	ラモン・ <u>ワパヤ</u> 様

ご出席の皆様

本日は、オルティス大臣の御出席の下、日本の環境プロジェクト無償資金協力による太陽光パネルの引渡式典に出席できることを嬉しく思います。

本プロジェクトで、ここリマにあるSEDAPALのカラポンゴ下水処理場と、クスコにあるクスコ東南地域電力会社(ELSE)の本部にそれぞれ150kWの太陽光発電設備を日本から供与し、既にそれぞれの施設で商業電力の消費削減に貢献しています。

太陽光発電設備は、既に新しい技術ではなく、ペルーでも普及が進んでいるところですが、再生可能エネルギーを利用した発電設備の象徴的な存在であり、適切にメンテナンスさえ行えば長期的に電力を確保することができます。

ペルーでは、今でも通貨の単位を「Sol」と呼ぶほど、古代の文明から太陽を大事にしてこられたと承知しています。その太陽の恩恵を直接、生活の糧にできる技術は、この太陽光発電設備が唯一の答えではないと思いますが、現代のペルーにとって象徴的なものになり得るものと考えます。

今回のプロジェクトをきっかけとして、これまでの日ペルー両国の友好関係の更なる発展・強化に資することを期待しております。

ありがとうございました。